

Si-R240 V32.03 変更内容一覧

□機能追加・改善

No.	項目	内容
1	無線LANアクセスポイント機能	PCカードスロットにSi-R シリーズ専用の無線LAN AP カード(SIRWLAP)を装着し、無線LANアクセスポイントとして利用することが可能になります。 ・無線LAN規格 : IEEE802.11a(W52)準拠、IEEE802.11b/g準拠 ・セキュリティ : WEP(64/128/152ビット)、WPA/WPA2-PSK(TKIP,AES)、ANYキープロテクション、SSID非通知 ・クライアント接続台数 : 10台/カード 無線LANカードは、SLOT0 またはSLOT1 のどちらか一方に挿入して使用してください。
2	データ通信カード機能拡張	SLOT0に加え、SLOT1も使用可能になりました。 同時利用可能なデータ通信カードは1枚までです。

□修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V31.01~V32.00	RADIUSサーバ冗長構成にてサーバ停止後の初回認証要求送信以降、サーバ無応答検出までの間に送信した認証要求がサーバ切替後に再送されない。
2	V31.01~V32.00	相手装置から未サポートのケーパリティ値を通知された場合、NOTIFICATIONのメッセージを送信するため、BGPのセッションが確立できない。
3	V31.01~V32.00	相手装置から未サポートのケーパリティ値を通知された場合、未サポートを示すために送信するNOTIFICATIONメッセージ内のデータ部(相手装置から通知されたケーパリティ値)が不正な値となる場合がある。
4	V32.00	NATトラバースを使用している環境でIPsec/IKEトンネルが使用できなくなる場合がある。
5	V31.01~V32.00	装置内でIKEを設定しているremote定義と手動鍵を設定しているremote定義が混在し、各々でremote定義で接続先監視を行い、接続先がダウンした場合にIKE側の接続先監視が復旧しない場合がある。
6	V32.00	IPsec/IKE定義が設定済みの状態で、ike portを変更して定義反映後、IKEネゴシエーションができない。
7	V31.01~V32.00	マルチNATを使用した時にプライベートポート番号28800番のUDPパケットが通過すると、システムダウンもしくは異常動作をする場合がある。
8	V31.01~V32.00	特定のネットワーク構成において、Si-RがASBRとして動作しているOSPFエリアの種別を一般エリアからNSSAに動的定義変更すると、ABRが変換できないtype7 LSAをSi-Rが生成する場合がある。
9	V31.01~V32.00	一般エリアでASBRとして動作するSi-Rについて、経路変動発生直後に一般エリアからNSSAエリアに動的定義変更すると、ABRが変換できないtype7 LSAをSi-Rが生成する場合がある。
10	V31.01~V32.00	Si-RがNSSAのASBRとして動作しているとき、再配布経路がなくなってもメモリが開放されない。
11	V31.01~V32.00	OSPFネットワークが複数エリアで構成された構成において、ASBRを含むエリアをNSSAに変更すると、ABRがtype7 LSAをtype5 LSAに変換しない、またはASBRのNSSA外部経路を誤計算する場合がある。
12	V31.01~V32.00	WWW.OSPFエリア情報/バーチャルリンク情報で保存したときにシステムダウンする場合がある。
13	V31.01~V32.00	HTTPで1024文字を超えるGET要求を行うと、システムダウンする場合がある。
14	V32.00	装置アイドル状態で操作コマンド pinctl を実行すると装置ビジーで終了してしまう。
15	V32.00	操作コマンド pinctl use および pinctl change でPIN認証に失敗した時、PIN認証失敗のエラーメッセージの他に、Unknown command のエラーメッセージが出力される。
16	V31.03~V32.00	構成定義コマンド wan cardmodem pin の入力時に余分な引数を入力してもエラーにならない。
17	V31.01~V32.00	SSH/SFTPセッションの切断開始から0.5ミリ秒以内に接続要求を受信するとシステムダウンが発生する場合がある。
18	V32.00	装置起動時に構成定義の読み込みに失敗してリカバリモードで起動することがある。
19	V32.00	装置にログインしてコマンドを実行した際、引数の数が足りないと<ERROR>(null): Operation not permitted という正しくないエラーが表示されることがある。
20	V32.00	tailコマンドを付加した表示コマンドを装置起動後、通算で約27000回以上(*1)投入するとシステムダウンまたはハング等の異常が発生する。 *1: 回数は目安であり機種および運用状況により異なります。(Si-R180/220B/240/260B: 約27000回、Si-R370: 約70000回、Si-R570: 約150000回)